

..... 編集後記

◆ 産官学という言葉は、編者の所属する研究所でも、よく使われています。曰く連携であり、曰く共同研究であり、成果の相互利用であり、まあ、そんなところです。官の意味を国や地方の行政体にも広げると、これが実は、編者ら研究者のつきあいのすべてです。一般国民、市民を表す言葉は出てきません。研究の成果を広く一般の方々に役に立つように使っていただくためには、他の行政機関や企業、マスメディアを通します。直接接することはめったにありません。ですから、話し方がへたくそです。子供に向かって変に丁寧語や敬語を使ったりします。間の取り方がうまくできません。一方的に早口でしゃべり続けたり、気まずい沈黙が流れたりします。お客様に接するということが、通常想定しないことなのです。編者は、あるとき、ほかの公的機関の展示発表会に見学に行ったことがあります。ある機械の前にボーッと立っていると、さっと寄ってきた人が、その原理、操作方法、利用価値を流ちょうに説明してくれました。見てすぐわかる、応援に借り出された企業の方です。プロはこうでなくちゃ。

◆ 社会に直接開かれた数少ない機会が、地質情報展です。毎年開かれているにも関わらず、所内の協力研究者数はさほど増えません。準備には相当な労力が必要です。努力をすれば必ず報われるとは限りません。それを見越して、このような事業には関わらない研究者も多いのです。本誌に掲載されたのは、もちろん関わった方々の報告のみです。開催前、開

催中、それぞれいろいろと苦労があったようです。多くの関係者は、努力は報われたと述べています。

◆ 内容は盛りだくさんです。編者も知らないようなこともあります。もう、難しく、触れない装置もありそうです。よくわかることもあります。石を割ること。未経験者の様子を見ていたことがあります。小さく、ちょんちょんとハンマーを当てます。キミ、それでは石は割れないのだよ。ドーンと、乾坤一擲は、ちと大げさですが、たたかないと割れないのです。集合住宅の火災の際の避難のために、ベランダの隣家との間の薄い壁を割るときなどにも応用できますので、コツを覚えておくと得でしょう。

◆ 鳴き砂を上手に鳴かすことができないやつは、女を泣かすこともできない、などと言っていた地質学者がいました。その人はもう亡くなりました。暗に、そう言ったのは編者ではないということを書いていきます。いずれにせよ、今はもう、そんなことを口に出す人はいないでしょう。時代が変わりました。時代とともに良い砂は減っているようです。

◆ 地熱の評価の話は、これは前に見たような表題だと思われた方もいるでしょう。読んでみて、前に読んだことがあるようなと思う方もいるでしょう。しかし、読めば、違う内容のものであることはわかります。誤解を与えないような努力が必要です。静岡の情報展の報告によれば、日本で地熱発電が行われていることを知らない人がいるとのことでした。研究活動だけでなく、宣伝活動も、やはり大切なのですから。

(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂
副委員長：谷田部信郎
委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 029-861-3754
Fax. 029-861-3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース	第594号	2004年	2月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2004年2月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2004 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。